

永田町に任せない

オピニオン

永田町の混迷ぶりは、戦後築き上げてきた「議会制民主主義」という堤防が決壊してしまっ
たかのように映る。機能不全に陥った政治の欠陥を補うために我々に何ができるのか。

直接投票で国民に聞こう



56年、仙台市生まれ。国公立病院などの勤務医をへて98年に参院初当選。現在3期目。政治活動のかたわら、心療内科医として診療も。
—高波淳撮影

桜井 充さん

民主党参院議員・財務副大臣

私の選挙区は宮城県です。うちの仙台の事務所にも「政治は何をやっているんだ」というお叱りの電話がすごい。

国民の皆さんからすれば「民主党は菅直人首相がいつ辞めるかで内紛をやっているし、自民党は菅政権の足を引っ張って政局にしようとしている。復興も原発事故もめどが見えないのに、いったい何だ」ということでしょう。

こういう政治の姿が報道され、国民が深刻な閉塞感を抱いている。それはよく分かります。さらに、各種の世論調査を見ると、自分たちの声が反映されていらないという不満も高まっています。じゃあ、それを受け取って政治家はどうすればいいか。私が提案したいのは、国民投票の導入です。多くの国民に関わったり国の行方を左右したり

する問題について、国民の皆さんに直接、投票で意思表示してもらおう、それを政治が尊重しようという、諮問型の国民投票です。1999年に国旗・国歌法が問題になったときから調べてきました。

福島第一原発の事故後、原発を今後を進めるのかやめるのか、国民全体に関心が高まっています。イタリアでも国民投票がありました。私たちも今こそ国民投票で決めるべきです。

日本は、国民が選んだ議員が国民に代わって政治を行う間接民主主義の国です。でも、もし政治が十分に機能していないなら、その時は議会政治を補完する意味で、直接民主主義的な要素、つまり国民投票を実施したらいい。

国民投票の立法化をめざして、議員連盟をつくろうと呼び

かけています。6月下旬の最初の勉強会には国会議員25人、秘書25人が集まりました。仲間と話し合い、早ければ議連を今月上旬にも旗揚げしたいと考えています。

永田町では、原発を争点にした総選挙があるのでは、という話が聞こえてきますが、私は反対です。総選挙を一つの政策課題の賛否を問う形で行ってはいけません。05年の郵政選挙でどうなったか、思い出してください。総選挙は、政党が様々な政策をひとまとまりにして争うものです。

国民投票で結果が出たら、賛否どちらでも、あとは政治がきっちり進めます。国民投票とは国民と政治をつなぐものであり、停滞する政治に活を入れるものです。

今だって永田町の政治家みんながみんな、政争に明け暮れているわけではないですから、そこは勘違いしないでください。1次補正予算も、復興法案も、与野党の協力で国会を通りました。争いごとに関わっていない政治家からすれば、政界全体が政争をしていると見られることは、とても心外なんです。

聞き手
編集委員・刀裨館正明